

愛川町身体障害者福祉協会会報

身障 あいかわ

題字 愛川町長 小野澤 豊

発行

愛川町身体障害者
福祉協会

平成二十八年度

定期総会開催

五月二十九日午後一時三十分より愛川町文化会館三階大会議室において身体障害者福祉協会



の定期総会が小野澤町長はじめ小島町議会議長、萩原社会福祉

協議会会長他福祉関係者のご臨席を賜り盛大に開催されました。神田会長の挨拶のあと議長に鈴木康夫氏を選出して議事に入り平成二十七年年度の事業報告が武富事務局長、決算報告が会計担当の斎藤副会長からあり続いて斎藤監事より会計監査報告ののち質疑応答の結果満場一致で承認されました。続いて平成二十八年度の事業計画案、予算案が提案され審議の結果提案どおり可決されました。

議事終了後ご臨席頂きました小野澤町長、小島議会議長、萩原社協会長よりご挨拶を頂き心温まる激励に感謝申しあげます。その後、懇親会で愛川真希歌謡ショーで楽しいひと時を過ごしました。飛び入りのカラオケがはじまり大いに盛り上がりしました。休日にも関わらず福祉支援

課の職員の方々には会場の設営や後片付けなど協力を頂き有難うございました。



カラオケで楽しくデュエット

また春日台の神田、鈴木、高田さんの奥様方にお手伝いを頂き厚く御礼申し上げます。

身障協会設立 六十周年に想う

昭和三十一年八月一日福祉向上と自立支援活動・相互扶助を目的に伊従治義氏を初代会長に選出して設立されました。事務局は役場に置き、会員も四五〇余名の大きな団体でした。沼田会長の時、連絡や活発なサーク

ル活動、会員の声を伝えるため昭和六十二年九月に創立三十周年を機に会報「身障あいかわ」第一号が発行されました。また志村会長時の平成十一年の総会で地域作業所設立に際して協会の特別事業として承認され協会より100万円出資、一般・個人寄付金122万円の資金で平成十五年四月一日「あいかわ工房」が開所しました。

これを機に平成十二年四月より事務及び会計業務が町から協会へ移管され自主運営の協会となり事務局を「あいかわ工房」に置くことになりました。

その後、新作業所運営にはNPO法人化が必要となり現在に至っております。平成十八年十一月に協会設立五十周年の式典と記念誌が発行されました。

その後、協会の会員も段々と高齢化が進み、新会員の入会も少なく現在一五〇名の会員数になりましたが、会員同士の親睦を第一に置き、リハビリ旅行クラブの楽しい春・秋のバス旅行や月二回のカラオケ会、県や町の行事に参加しています。

女性部総会開催

五月二十一日高峰老人福祉センターで二十八年度の総会が開催されました。萩野女性部長より平成二十七年度の活動報告と会計担当の久保坂さんより収支報告がありました。その後、伊藤さん、玉木さんより会計監査



報告があり議案どおり承認されました。続いて平成二十八年度の活動計画案と予算案が提案されました。七月に行われる県身連主催の富士登山には女性部から

過去最高の十一名が参加します。またリハビリ旅行クラブ主催の春と秋の日帰りバス旅行に大勢参加します。

佐野有美さんの

チャリティー講演会

六月四日愛川文化会館で国際ソロプチスト愛川主催の講演会が開催されました。講師は先天性四肢欠損症で生まれ、あるのは短い左足と三本の指のみという重度の障害がある現在二十六歳になる明るい女性アーティストでした。天性の明るさと何事にも諦めない前向きな生き方、出来る出来ないの結果論でなく、やらなかった挑戦しなかったことに悔いが残るとの話に感動を覚えました。両親や兄弟そして学校の先生や友達に支えられ普通の小中高で学び成長してきた。足の三本の指はスプーンで食事したり遊んだり衣服を着たり脱いだり、そして字を書いたり今は顔のメイクもできる魔法の指先になった。電動車椅子を指先でコントロールして自由に動くこともでき自分で書いた詩集「あきらめないで」に曲が付き

自分で歌ったCDがレコード大賞の企画賞に輝いた。

私は行動するまえに「でも、だって」など自分の障害を負の



言い訳にしない。常に「有難う、笑顔、諦めない、支え合い、絆」をモットーに生きている。

私には声がある、未来を夢見る瞳がある、そして短い左足の魔法のような三本の指がある、感謝、生んでくれてありがとうと全国で講演し歌い、私たちに生きる勇気をくれていきます。

私達身体障害者も辛いことも多々あると思いますが、何事も前向きにやりたいことに挑戦し「やったー」という喜びと達成感そして生き甲斐ある日々を作っていくたいとおもいます。人生様々に喜怒哀楽の連続ですが「わが人生悔いなし」と誇れる

る自分史を綴りましょう。

愛川健康のまち宣言

七月三日愛川町文化会館ホールで大勢の町民参加のもと小野澤町長の挨拶のあと宣言書が参加者全員で読み上げられました。健康は皆の願いであり、幸せの源です。町民みんなが手を携えて積極的に健康づくりを実践し、ともに生きる喜びを分かち合いながら、心豊かな明るい愛川を築くため、ここに「健康の町」宣言します。

一、「自らの健康は自らが守る」の意識を高め、健康管理に努めます。

一、恵まれた自然とふれあいながら、健康運動を楽しみ、元気な心と体をつくります。

一、休養を上手にとり、心穏やかな毎日を楽しみます。

一、栄養バランスのとれた食生活を続けます。

一、家庭、地域で支え合い健康づくりの輪を広げます。

このあと長野県の諏訪中央病院名誉院長であり作家の鎌田實先生の記念講演がありました。私達障害者は出来る範囲の運

動を工夫して体を動かすこと趣味や人とふれあいで楽しい時間が生まれます。

年に数回は定期的に健康推進課を訪れて血管年齢や骨健康度、脳年齢、血圧など測定して健康度をチェックしよう。費用は無料です。また、七市町村共通の「健康度見える化」手帳は十二回健康記録が記入でき、自分の健康度の推移を見て健康を意識した日常の生活ができる一人ひとりになれると思います。

楽しかった春のバス旅行

恒例となったリハビリ旅行クラブのバス旅行が四月二十三日県の福祉バス「ともしび号」で川越をメインに行われました。参加者三十五名、天候にも恵まれて町文化会館前を出発して新しく開通した圏央道を走り青梅市の塩船観音寺に立ち寄りしました。堂を囲むように傾斜地に植栽された赤白ピンクのツツジの花は美しく見事でした。

お店で昼食したり、お土産を買ったり楽しみました。最後は東京調布市の神代植物公園に立ち寄り満開のツツジやボタンの花、バラやフジの花、



草花の展示など見ながら園内を散策しました。私の歩数計は1万7千歩よく歩いたな、皆さんもだいぶ疲れたでしょう。これから年二回楽しいバス旅



行企画しますので、楽しみにしてください。体が動ける間はほとんどん参加して会員同士の交流を深めましょう。武富記

日帰りバス旅行に行つて

大田唯斗

門田さんのお孫さんの投稿です。この前おばあちゃんとおばあちゃんのお友達と一緒に遠足に行きました。最初に塩船観音寺に行き、階段がとてもきつかったです。山門を超えたあと、

ものすごい大きな赤松の木が何本も立っていました。そして奥に行くにつけ観音像が立っていました。その隣のお店に行くとお花を売っていました。においがかぐときれないにおいがしました。



次に川越に行き自由行動と言われました。おばあちゃんと小江戸をまわりお昼ごはんを食べにいきました。僕は魚料理が好きだからサバ定食にしました。サバの身がトロトロしていて美味しかったです。次にお菓子屋横丁に行きました。

お菓子のお店がいろいろありま
した。そこでガムとラムネを買
ってもらいました。おいしかっ
たです。あとはブラブラあるい
てバスにもどりました。



次にお花がいっぱいある神代植物公園にいきました。そこは数えきれないほどの花が一面に広がっていました。バラやボタン、ツツジなど他にもいっぱいありました。おばあちゃんのもだちのおじさんにいっぱい写真をとってもらいました。おばあちゃんとの写真、おばあちゃんとおじさんと多くの写真もと

りました。お腹がすいたのでソフトクリームとせんべいを買ってもらいました。せんべいをコイにあげるとすぐよろこんで取り合いみたいになりました。全員で記念の集合写真をとりました。とても楽しかったです。また一緒に遠足に行きたいです。

富士登山会に参加して

半原 篠崎とみ代

県身連恒例の富士登山会が七月十四日開催されました。愛川町から過去最高の十四名が参加しました。神奈中観光バス五号車で朝七時一〇分愛川町役場前を出発して相模原市、座間市、愛川町、厚木市のメンバーが同乗して目的地をめざす。昨年は雨で登山中止となり残念でしたが今年も雲が多く雨が心配でした。いい登山ができました。バスは富士吉田ビジターセンターで他のバスと合流、県職員から注意事項等説明があり、その後バスは富士スバルラインを走って富士五合目の見晴らし広場に到着しました。十一時から自分の体力を考え周辺の散歩や六合目、七合目をめざす人もいました。

広場は団体の外国人で混み合つて富士登山の人氣がわかりました。六合目まで登山道は見晴らしも良く時より霧と一緒に吹き上がる冷たい風が心地よい、弁当のおにぎりも特別美味しく感



じられた。十四時まで見晴らし
広場にもどりおみやげ店をまわ
り買い物しました。

帰りの車中は皆心地よい疲れで静かな寝息が聞こえる。午後六時半に無事愛川へ帰ってきました。わたしも来年は六合目までチャレンジしようかな。

これからの主な行事

九月十日

愛川町ふれあい広場

九月二十日

町身体障害者慰安激励会

十月二日

県身連福祉大会

相模原グリーンホール

十月二十九日

愛川町社会福祉大会

十月下旬

秋の日帰りバス旅行

リハビリ旅行クラブ主催

一月十四日

愛川町福祉団体賀詞交歓会

編集後記

暑さ厳しい時節となり熱中症や食中毒などに注意されてこの夏を乗り切りましょう。今年は協会設立六十周年になります。歴代の役員の方々に感謝し、協会の益々の発展を祈ります。「身障あいかわ」も六〇号になります。これから皆さんに喜ばれる会報を届けていきます。皆様からの投稿をお願いします。